

「東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金」について

(公財) せんだい男女共同参画財団

1 基金の概要

(1) 名称

英語 (正) the Women's Leadership Fund for Recovery from the Great East Japan Earthquake

日本語 (副) 東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金



基金事業ロゴマーク

(2) 目的及び目標

目的：女性に力を与え、東日本大震災によって壊滅的な被害を受けた地域社会の再建においてリーダーシップを発揮するよう促すこと

目標：被災地の復興活動を主導することのできる女性の人材を育成し、その災害管理・復興能力を有効に活用するための全国的な女性のネットワークを構築すること

(3) 三者協力協定の締結

ノルウェー王国からの拠出金による「東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金」を設置することについて、ノルウェー王国外務省、仙台市及びせんだい男女共同参画財団の三者が平成 24 年 11 月に協力協定を締結。

(4) 金額

ノルウェー王国からの拠出金 1 5 0 万ノルウェークローネ。

※円換算で約 2, 0 0 0 万円。

(5) 役割分担

基金の具体的な事業の実施主体は、せんだい男女共同参画財団とする。仙台市は同財団に対して必要な助言・指導を行うとともに、事業が誠実に実行されることを監督する。

(6) 事業期間

協定締結の日から平成 2 8 年 9 月 3 0 日までの約 4 年間（平成 2 4 年度～平成 2 8 年度の 5 カ年度）とする。

(7) 事業内容

毎年度、基金の設置目的に沿った、プログラム開発及び調査研究、視察交流及び招聘、広報啓発、セミナー開催、事業報告書作成などを行う。

※事業の概要、平成 2 5 年度事業内容については別紙のとおり

(8) 事業報告

毎年度、進捗報告書を駐日ノルウェー王国大使館に提出する。また、最終報告書等を平成 2 8 年 9 月 3 0 日までに提出する。

2 ノルウェーの東日本大震災復興支援「チーム・ノルウェー」

ノルウェー王国イェンス・ストルテンベルグ首相が始めた東北復興のための取り組みで、政府、企業、NGO が一体となり「チーム・ノルウェー」の体制で、被災地の復旧と復興努力に貢献するとして活動している。支援に際しては、ノルウェーの経験と知識が活かせる分野として、漁業、水産業、沿岸開発、危機管理計画、洋上風力及び太陽光をはじめとする再生可能エネルギー、環境技術に焦点を当てている。今回の基金への協力も、この一環として実施されている。

東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金事業の概要等について

事業分類		概要	25年度事業
1	交流・招聘	男女平等先進国であるノルウェーの視察研修・交流を通して、参加者のリーダーシップを高めるとともに、その成果を参加者のフィールドに活かす。また視察研修・交流によるネットワークづくりを進め、啓発事業等の実施にもつなげる。	「若者リーダー育成・交流」をテーマとし、復興に携わる若い世代の女性6名程度をノルウェーに派遣。 派遣にあたっては事前研修を実施し、視察研修の効果を高めるとともに、報告会、レポート作成等により、研修成果を広める取組を実施。
2	調査研究及び事業実施	地元経済を支える企業等の組織における管理的立場の女性の教育プログラム開発及び地域における女性の意思決定参画促進のためのプログラム開発により、日常からの男女共同参画を促進する。 ①ノルウェーの優れた女性管理職育成プログラムであるFFP(Female Future Program)研究 ②地域リーダー育成プログラム研究の2分野で調査研究とこれに基づく事業等を実施	①FFP FFPに関する資料収集、女性の登用等に関する在仙企業へのヒアリング調査の実施 ②地域リーダー育成 防災ワークショップ ファシリテーター養成講座の実施、地域での防災ワークショップの試行的な実施等
3	講座等 広報啓発	防災復興における女性の視点の重要性や意思決定過程への女性の参画の重要性について学び、認識を広めることを通して、男女共同参画を推進する。男女平等先進国ノルウェーについて理解を深め、多角的な視点から男女平等社会を実現させてきたノルウェーから学ぶ。	ノルウェー教育・研究副大臣と若者とのトークイベント実施、基金事業やノルウェーの取組への理解を促進するためのパネル展、広報紙の発行等
4	ネットワーク・キャンペーン	防災・復興における男女共同参画視点の「見える化」を図るとともに、全国の男女共同参画推進センターの役割と意義の再認識を図る。 地域防災計画への男女共同参画視点の反映と男女共同参画推進センターの位置づけの明確化について、全国的な展開を図る。	全国女性会館協議会と連携し、防災・復興における男女共同参画視点をテーマとしたキャンペーンの実施 被災3県男女共同参画推進センター意見交換会の継続開催 被災3県の男女共同参画推進センターのニーズ・課題認識の共有と、連携事業実施の可能性等に関する事務担当者レベルでの意見交換・連携事業の実施

東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金 地域リーダー育成事業
「女性の視点による地域防災ワークショップ」について

女性の視点による地域防災ワークショップを地域で実施することにより、地域防災における多様な視点の共有や地域における男女共同参画を推進するとともに、ワークショップを行うことのできる女性ファシリテーター養成を通じて、地域防災と復興まちづくりを担う女性リーダーの育成を行うもの。

(1) 「女性の視点による地域防災ワークショップ・ファシリテーター養成講座」

(別添チラシ参照)

東日本大震災女性支援ネットワークとの共催により、災害と男女共同参画・多様性配慮についての基本的な知識を学ぶとともに、避難所運営を疑似体験するワークショップを行った。また2日目は参加者を女性に限定し、ファシリテーターとしてワークショップ運営の実践を行った。

- ① 日時：6/6(木)～7(金)【実施済み】
- ② 参加者：1日コース(6日のみ) 男女 34名
2日コース 女性 14名

(2) 仙台版ワークショッププログラムの作成

(1)で体験した避難所運営ワークショップをベースに、養成講座参加者と当財団との協働により仙台版ワークショッププログラムを作成

- ① 期間：6月～9月
- ② メンバー：(1)の養成講座において2日コースを受講した参加者6名と財団職員
- ③ 実施方法：期間中に5回程度のミーティングを実施し、仙台版プログラム案を検討するほか、ワークショップの試行を行いファシリテーターとしての技術向上を図る。また、避難所経験のある女性の方へのヒアリングを実施し、その経験をワークショップの内容に反映させる。

(3) 仙台版ワークショッププログラムの地域における実践

10月以降、町内会、社会学級、PTA等の地域団体での実施を目指し、広報等を行う予定。また、本ワークショップは、避難所運営における多様性への気づきや、地域での話し合いのきっかけを作るアイスブレイクとしても役立つプログラムであるため、現在、仙台市内の各地域において進められている「地域版指定避難所運営マニュアル」の策定作業の一環としてワークショップを実施していただけるよう、仙台市の担当課や地域への働きかけを行う予定。